

F ランク大学における学習活動

—資格取得に駆り立てられる学生たち—

○葛城 浩一 (広島大学)

山田 浩之 (広島大学)

1 研究の目的

本報告の目的は、近年の大学生の高い資格志向に鑑み、特にFランク大学の学生が資格取得に対してどのような意識を持っているのか、またなぜそのような意識を持っているのかを明らかにすることにある。

近年、大学生を対象とした複数の調査において、資格に対する関心が極端に高いという結果が同様に報告されている。なんらかの資格を取得したいと考えている学生は、山田 (2003) の大学新入生を対象とした調査では94.3%も存在している。近年、薬、看護、社会福祉系統の資格が取得できる大学や学部の人気をもって、資格志向の高まりが論じられることがあるが、山田 (2003) が対象としている大学・学部は、資格との親和性が必ずしも高いわけではない。このことに鑑みれば、資格志向の高まりは、資格が職業との関連で必要となる一部の学生に特化した現象ではなく、広く学生一般にあてはまる現象といえるだろう。

このような学生の資格志向の高まりについて、山田 (2003) は4つの要因を仮説的に提示している。特に「学歴社会への対抗策」、「学歴社会の崩壊による新たな差別化指標」として資格が重視されているという仮説に鑑みれば、難易度の低い大学の学生は、資格のそうした機能をより切実に求めているものと考えられる。

一方、こうした資格取得に対する学生側のニーズに対応して、大学側も資格型カリキュラムの導入や、エクステンションセンターやライセンスセンターといった資格受験指導組織の設置など、学生の資格取得に対して大学としてなんらかのバックアップを実施している。特にこうした大学側の取り組みは、就職率の増加や入学者数の確保といった大学側の思惑とも絡んでいるため、ますます重点化されてきている。

ベネッセの調査 (2000) によれば、資格や免許取得、国家試験受験のための支援教育の充実に向けて、難易度の低い大学ほど「力を入れてきた」と回答している。また、難易度の低い大学ほど「今後力を入れたい」と回答しており、特に偏差値50以下の大学では、94.5%の大学が資格支援に力を

入れていこうとする方針を打ち出している。

このように、もともと資格に対する関心が高いことが予想される難易度の低い大学の学生は、その大学に所属することによってさらにその資格志向を高められていることが予想される。

そこで本報告では、特にFランク大学の学生を対象とする。Fランクとは河合塾による大学の格付けであり、通常の難易度がつけられない大学、つまり受験すれば必ず合格する大学を意味している。そうした大学の学生が資格取得に対してどのような意識を持っているのか、またなぜそのような意識を持っているのかを質問紙調査及びインタビュー調査の結果をもとに明らかにしたい。

2 調査の概要

調査対象は、ある地方都市に所在する偏差値40程度のいわば底辺私立大学の学生である。対象となった私立A大学は4年制、共学の社会科学系複合大学である。アンケート調査は2004年11月に、法学部及び経営学部の授業時間を利用して行い、230名の学生から回答が得られた。性別では男性82.2%、女性17.8%と、男性のサンプルが圧倒的に多い。しかし、私立A大学の在学学生に占める男女比率もこの値とほぼ同様であることから、サンプルに偏りはないものと思われる。また、学年別では、1年生47.8%、2年生34.8%、3年生以上が17.4%と、下級学年が中心のサンプルとなっている。学部別では、法学部が52.2%、経営学部が47.8%とほぼ均等である。

本報告では、以上のサンプルに基づく調査結果を中心に、適宜、他大学のサンプルに基づく調査結果との比較を行なう。なお、昨年報告したように、資格志向は学年進行に伴って減少する傾向がある。そのため、比較を行なう際には学年を統制する必要がある。本報告では、特に資格志向が顕著にみられる1年生110名を対象としたい。

比較対象となるのは、私立B大学の学生である。私立B大学は偏差値50程度のいわば中堅私立大学であり、社会科学系学部の1年生を対象とする。私立B大学への調査は2002年10月から12月にかけて実施し、485名から回答が得られた。

なお、サンプルの多くが人文科学系と自然科学系からなり、社会科学系のサンプルは少数ではあるが、参考までに国立C大学との比較も行った。国立C大学は偏差値 60 程度の中堅国立大学である。国立C大学への調査は2004年9月と12月に行い、241名の1年生から回答が得られた。

また以上のアンケート調査に加え、私立A大学の学生を対象としたインタビュー調査も行った。調査は2005年8月に6名に対して行った。本報告では先の質問紙調査の結果を、インタビュー調査の結果を踏まえて解釈するものとする。

3 調査の結果

調査結果の一部を以下の表に示した。調査結果の詳細は当日配布する資料に譲りたい。

表1 大学生の資格志向

	私立A大学	私立B大学	国立C大学
資格試験を受験したことはないし、今後も受験しない	19.1	17.9	14.9
資格試験を受験したことはないが、これから受験したい	56.4	46.4	55.2
資格試験を受験したことがある	24.5	35.7	29.9
合計	100.0(110)	100.0(420)	100.0(241)

※数値は%、括弧内は人数。また***は $P < 0.001$ 、**は $P < 0.01$ 、*は $P < 0.05$ 。

表2 大学生の資格意識（表中の値は以下の考え方に「あてはまる」と回答した割合）

	私立A大学	私立B大学	国立C大学
資格を持っていると就職活動で有利になる	98.2	97.7	95.0
資格をとると大学の成績もあがる	42.7	48.2	20.7 ***
学歴よりも資格のほうが重視される	52.3	65.7	30.7 ***
資格をとってもあまり意味はない	2.8	2.9	4.6
資格取得のための勉強は大学の勉強を邪魔する	10.9	16.8	11.3 **
資格取得のための勉強はやりがいがある	71.8	76.0	62.2 **
資格取得のための勉強で人間的に成長する	55.5	49.3	41.8 **
資格試験に合格すると強い達成感が得られる	85.3	89.8	87.0
資格を取得すると自分に対する評価があがる	68.8	79.6	68.9 **
資格取得には高額な費用をかける価値がある	31.8	34.3	21.9 ***
偏差値の高い大学よりも 資格の取れる大学のほうが優れている	43.1	36.0	5.9 ***
資格を持っていると、就職後の給料がよくなる	59.1	74.6	41.8 ***

表3 採用側が就職を決定する際に大きな影響を与えると思うもの

	私立A大学	私立B大学	国立C大学
資格	67.3	91.5	89.3 ***
大学での成績	55.5	62.0	60.3
学歴	55.5	58.3	60.7
大学の名前	22.7	36.0	40.6 **
容姿	30.9	18.6	12.4 ***
サークル活動	37.3	20.0	19.7 ***
人格	76.4	71.1	76.5
コネ	17.3	35.1	19.2 ***

参考文献

- 阿形健司 2000 「資格社会の可能性—学歴主義は脱却できるか—」近藤博之編『日本の階層システム3 戦後日本の教育社会』東京大学出版会。
- ベネッセ文教総研編・発行 2000 『教育改革と人材育成の方向性 2000年版』。
- 藤井泰・山田浩之編 2005 『地方都市における学生文化の形成—愛媛県松山市の事例を中心に—』松山大学地域研究センター叢書第3巻。
- 山田浩之 2003 「地方私立大学における新入生の学習志向—松山大学経営学部新入生調査を中心に—」広島大学大学院教育学研究科教育社会学研究室『教育社会学研究年報』第6号。